



子ども大学学生新聞

第5号

子ども大学

かわごえ新聞部

第6期入学式

新入生は182人

「たくさん、しっかり、楽しく学ぼう」

子ども大学かわごえ第六期生の入学式が六月二二日（土）午後二時から尚美学園大学川越キャンパス教育棟で行われました。



新入生歓迎のあいさつをする福岡礁君

今期の入学者は一八二人（四年生三人、五年生七一人、六年生七五人。応募者総数二九七人）。うち一六五人が入学式に出席しました。ほかに保護者一〇七人、きょうだい一七人が同席し、広い教室が満員になりました。

入学式は堤彩夏さん（大塚小六年）の司会ではじまりました。校歌斉唱のあと、遠藤克弥学長のあいさつがあり、「この子ども大学で、一つでも多くの知識を持ってもらいたい」と述べました。

次に来賓のあいさつがあり、川越市の奥山秀副市長が「学ぶことはとても大切だから、しっかり学ぼう」と呼びかけました。鶴ヶ島市教育委員会会の河上亮一教育長は「小学校では学べないことを、たくさん学ぼう」とおっしゃいました。尚美学園大学の

松田義孝学長は「子ども大学は埼玉NO・1だから、勉強がんばれ」と新入生をほめました。最後に、子ども代表の福岡礁くん（新宿小六年）が新入生歓迎のあいさつを行い、「楽しく学ぼう」と呼びかけました。

このあと、オリエンテーションがあり、注意事項などの説明がありました。（長坂星名記者＝高階北小六年）

「アベノミクスとは何だろうか？」

江夏健一先生「3本の矢」を説明

入学式のあと、ハリウッド大学院大学・江夏健一学長（早稲田大学名誉教授）による「アベノミクスとは何だろうか？」という授業がおこなわれました。

前半は、アベノミクスの起源の説明などがありました。「アベノミクス」という言葉の「アベ」とは安部晋三首相（第九六代内閣総理大臣）のことで、「ノミクス」とはエコノミクス（経済学）のことです。

経済のそもそもの意味は「せっやく」で、エコノミクスを英語から「経済学」と訳したのは福沢諭吉です。「アベノミクス」という言葉は、ロナルド・レーガンという人がおこなった「レーガノミクス」が起源です。

ロナルド・レーガンはアメリカの元大統領（第四〇代大統領）です。しかし、このレーガンの政策は「ふたごのあかじ」（対外債務と財政赤字）が増えたため、見方によっては失敗



に終わりました。この2つの言葉をくっつけて「アベ」＋「ノミクス」で「アベノミクス」です。

アベノミクスは安部首相が二〇一二年一二月に首相に就任したときに発表し、実行しはじめました。このアベノミクスには「3本の矢」があります。

一つ目の矢は、大胆な金融緩和です。これはデフレ退治や金融緩和でお金の供給を増やすことです。二つ目の矢は、積極的財政政策で

す。これは補正予算や公共事業の予算をふやすことです。二〇一二年年度補正予算は一三兆一〇五四億円、公共事業予算四・七兆円。二〇一三年度の予算総額は九二兆六一一五億円です。三つ目の矢は、民間投資を呼びおこす成長戦略です。

これは、どうやってこれから日本はお金を稼いでいきますか、ということ。規制緩和をしたり、大学に海外の人を呼び込み、イノベーションを起しやすくしたり、ベンチャー企業を支援したりすることが目的です。

しかし、景気をよくするためには、国民の所得、つまり給料を上げて、みんなが物をどんどん買えるようにする必要があります。

最後に先生は世界地図の話を読みました。世界地図は自分の国を真ん中にかくので、ヨーロッパの世界地図では、日本は東の端(極東)にのっています。オーストラリアの世界地図は、オーストラリアが真ん中にあるので、日本は上の方にかかれています。北極の地図は南極がかけないので、南極の地図をもう一枚書くことになりました。(川村弘希記者 中央小五年、土田莉子記者 山田小四年、石川珠里シニア記者 中学一年)

授業を聞いて

☆学生の感想

◇田澤和音君 中央小六年 「授業の内容や言葉が難しかったです」

(河野真央記者 寺尾小六年)

◇かし又だ君 福原小五年 「むずかしかったけど、ためになった」

(小島未来記者 福原小五年)

◇中島一真君 鶴ヶ島小五年 「話の内容は難しかったけど、面白かった。次の授業が楽しみ」(宮本愛音記者 鶴ヶ島小六年)

◇小林瑞宣君 高階南小五年 「アベノミクスが三本の矢であることを知ったことがよかった」(浅野璃子記者 杉下小五年)

◇小島玲菜さん 霞ヶ関東小五年 「むずかしかった。デフレスパイラルのことが印象にのこりました」(十重田妃菜記者 福原小五年)

◇青山日向子さん 中央小六年 「アベノミクスは、よく新聞で聞きました。あべさんが、けいぎいろうごかすのか、わからなかったのですが、このこうぎを聞いて、わかるようになりました」

◇加藤すみれさん 仙波小六年 「アベノミクスのせいさくは、テレビなどでよく聞いていたけど、思っ

たよりも大事なことをしているんだなと思いました」(以上、土田真由香記者 山田小六年)

「地図のしくみが面白かった」(小林実記者 福原小五年)

◇七井秀爾君 学習院初等科五年 「生活がよくなるために、お金の流れをつくるアベノミクスがたん生したそうで、げんじつになつてほしいなと思いました」

◇石川珠里シニア記者 「私は、アベノミクスは成功してほしいけれど、失敗すると思います。なぜなら、過去の政治家の様々な政策は、あまり成功したように見えないからです。そして、もう一つの理由は、アベノミクスは日本の経済政策ではないという点です。というのも、日本はアメリカに経済的影響を直接受けています。つまり、日本ががんばってもアメリカの経済が悪いと、日本の経済はよくなると思

うのです。では、どうすればいいのでしょうか? 私が思うに、日米協力した金融政策。これが経済の回復につながると思います」

◇橋本さん

Q おもしろかったことは何ですか?

A もうりもとなりの話がつくり話だったこと。最後のまんだんがおもしろかった。

Q 学べたことは何ですか?

A 世界地図を見て、見る方向によって同じものでも、ちがって見えることが学べました。

◇くり林さん

Q おもしろかったことは何ですか?

A 世界地図が見れたこと。

Q 学んだことは何ですか?

A アベノミクスよりも、世界に出るために一番必要なのは言葉じゃないかと思いました。(以上、山口航記者 中央小五年)

注意!!

おかしやゲームをもつてくる人を、よく見かけます。授業中、おんがくプレーヤーを聞いたり、ケイタイをやっている人もいます。いずれも禁止ですよ。まじめに授業を聞きましょう。(新聞部)

